

アメリカの大学図書館 による学士課程学生対象の 表彰制度の現状調査

新見 槓子

慶應義塾大学大学院

2012年度 三田図書館・情報学会 研究大会

研究の背景

- 学士課程学生による研究（Undergraduate Research）に対する国際的な注目
 - 大学における促進の取り組み
 - 高等教育関係の国際学会におけるテーマ

（中井 2011）

学士課程学生による研究 (Undergraduate Research)

- 各国の高等教育の状況により，導入の経緯・とらえ方は異なる
- 例)
 - アメリカの研究大学における問題意識
 - 大学における研究と学士課程学生に接点がない
 - 研究大学の特性を生かした学士課程教育の改善
 - イギリスの大学における問題意識
 - 卒業研究における学士課程学生の主体的意識の低さ

(中井 2011)

学士課程学生による研究

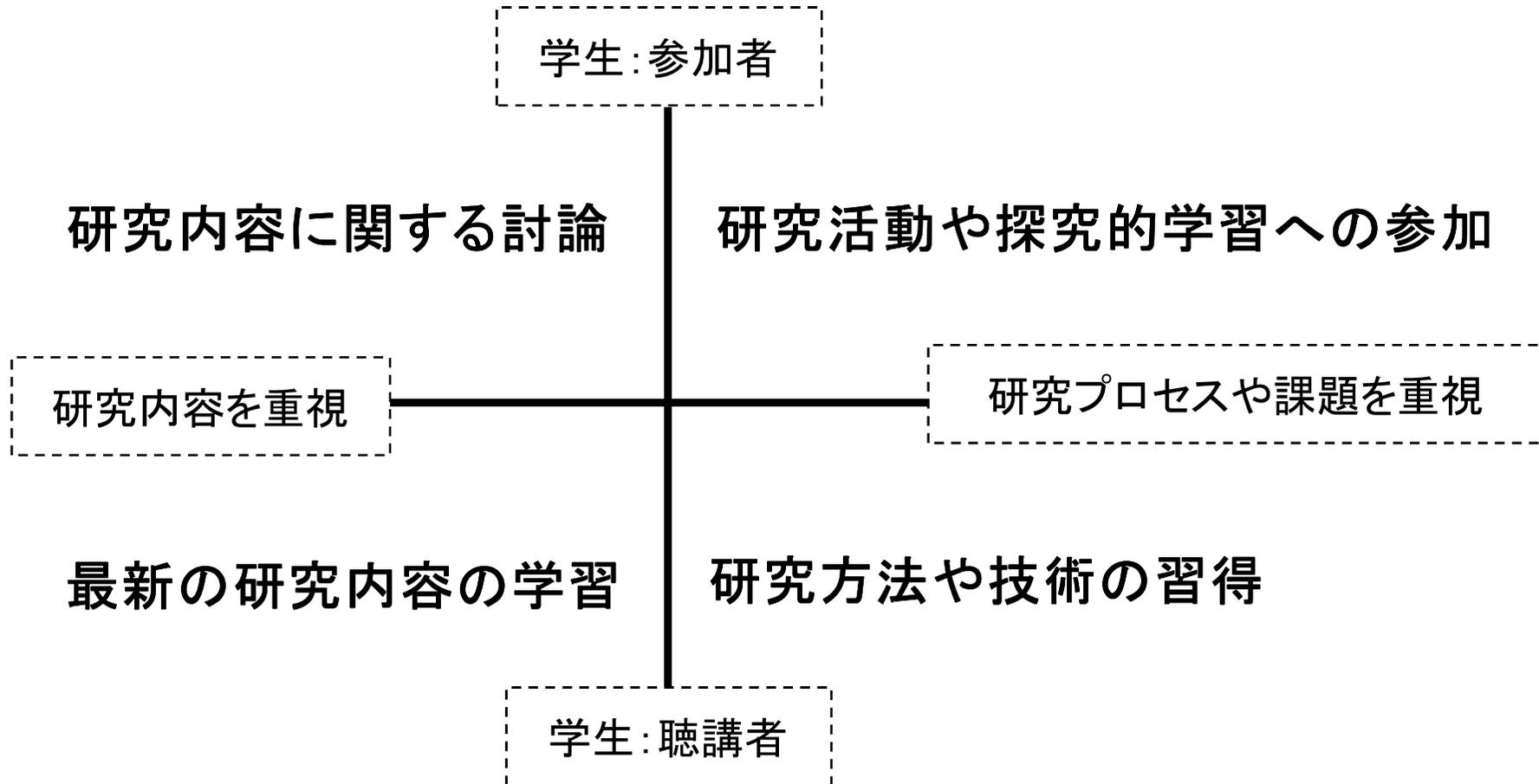
- 定義

- Council on Undergraduate Research (アメリカの全国的な組織) による定義

- 「学士課程学生によって実施され、専門分野に対して独自の知的もしくは創造的な貢献をする探究や調査」 (訳は、中井 2011より)

- 自然科学, 社会科学, 人文科学, 芸術活動など
全ての分野にわたる (Kinkead 2003)

学士課程学生による研究



(Healey; Jenkins 2009による類型。
訳は、中井 2011によるが、一部を発表者が変更)

アメリカの大学

学士課程学生による研究

- 早くから取り組みがなされていた
- 様々なタイプの大学で取り組まれている
- 学士課程学生による研究の促進方法
 - 学科による正規プログラムと
選択制の研究プログラムの双方での実施
 - 研究助成金の支給
 - 研究発表の場の提供と表彰 etc.

(中島(渡利) 2008)

大学図書館での取り組み

- 学士課程学生が取り組んだ、主に図書館の資料・資源を活用した研究を表彰する制度
- 代表例・嚆矢
 - カリフォルニア大学バークレー校図書館
(2002年開始)
 - ACRLのInstruction Sectionより、
Innovation Awardを受賞 (2005年)

学士課程学生対象の表彰制度

- 実態は明らかではない
- 文献
 - アメリカ： 事例報告・紹介
 - 日本： 簡単な紹介

研究の目的

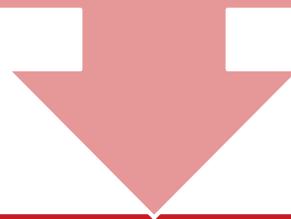
アメリカの大学図書館による、
学士課程学生を対象とする
表彰制度の現状を明らかにする

表彰制度の現状

1. 表彰制度を実施している大学図書館は、どの程度存在するか？
2. 表彰制度はどのように実施されているか？
 - どのような研究を表彰しているか？
 - どのように運営がなされているか？
3. 表彰に際しての評価基準は何であるか？



表彰制度の現状



特徴と役割

方法

- ウェブ調査
- 対象
 - ARLに加盟するアメリカの大学図書館
(全100大学)
- 調査期間
 - 2012年6月～9月

ウェブ調査の概要

各大学図書館のウェブサイトを調査

1. 表彰制度の実施の有無

- サービス案内ページ
- お知らせページ
- サイト内検索
- 検索エンジン

2. 表彰制度の詳細

- 表彰制度に関するページ



調査項目

- (1) 実施状況
- (2) 実施方法
- (3) 評価基準



結果

(1) 実施状況

(2) 実施方法

- 賞の種類
- 図書館の資料・資源の利用
- 表彰の対象（何を表彰するのか）
- 賞金額
- 応募時に必要なもの
- 審査体制
- 連携

(3) 評価基準

実施状況

- 31大学で表彰制度を実施 (n=100)
- 37件の賞を調査対象
 - 1大学で複数の賞を実施している場合あり

実施状況

	賞の件数
学士課程学生のみを対象	34件
学士課程学生と大学院生の部門があり	2件
学士課程学生から大学院生までを対象	1件

(n=37)

賞の類型

- 対象とする学生（学年）や研究の違いに基づく4つの類型

類型①-全般

類型②-特定資料

類型③-特定学生

類型④-特定分野

類型①-全般

- **学士課程学生による研究全般**を対象
 - 対象とする学年や分野を詳細に特定せず
 - 全学年・全分野を対象としているが、学年や分野別に部門がある賞も存在
 - 図書館の資料・資源全般を利用した研究
- 21大学で実施：**最も多い**
 - 22件の賞

類型②-特定資料

- 特定の資料を利用した学士課程学生による研究を対象
 - 図書館が所蔵する貴重書や特殊コレクション
例) デューク大学図書館
貴重書図書館所蔵の一次史料を利用した研究
- 5大学で実施
 - 8件の賞

類型③-特定学生

- 特定の学士課程学生による研究を対象
 - 対象とする学生の学年を特定
 - 対象の学年は大学によって異なる
 - 初年次生, 高学年生 (中上級レベルの授業の受講者), 卒業年次生
- 4大学で実施
 - 4件の賞

類型④-特定分野

- 特定分野における学士課程学生による研究を対象
 - 対象分野は大学によって異なる
- 3大学で実施
 - 3件の賞

図書館の資料・資源の利用

- 表彰の対象を**図書館の資料・資源を利用している研究**としている
(目的・応募条件・評価基準等に明記)
 - 36件の賞
- 明記していない賞
 - 1件の賞
 - 引用文献を重視するとは明記

表彰の対象 (何を表彰するのか)

- 学士課程学生（個人もしくはグループ）の
研究成果物
 - 35件の賞
- **研究計画**
 - 2件の賞

学士課程学生の研究成果物

- 35件の賞が該当
- 研究成果物の形態

	賞の件数
特に1つの形態に定めていない	22件
論文のみ	11件
マルチメディアのみ	1件
詳細不明	1件

学士課程学生の研究計画

- 2件の賞が該当
- 成果物が完成していない段階
- 研究助成の性格が強い

表彰の対象

(授業内/授業外における研究)

	賞の件数
授業内と授業外	14件
授業内 (授業外は不明も含む)	11件
授業外	3件
不明	9件

(n=37)

※ 授業外での研究: 選択制の研究プログラムや個人での研究

賞金額

- 100ドルから1,500ドルまでの幅
 - 1,000ドル（14件の賞）
 - 500ドル（11件の賞）
- 特典
 - 機関リポジトリへの掲載
 - 大学アーカイブでの保存
 - 展示

応募時に必要なもの

- (i) 研究成果物 (35件の賞)
- (ii) 研究プロセスや図書館の資料・資源の利用に関するエッセイ (23件の賞)
- (iii) 文献・資料リスト (15件の賞)
[論文等に付す引用文献一覧とは別途]
- (iv) 教員からの推薦 (22件の賞)

審査体制

- 15大学の審査体制を確認
- 
- 教員と図書館員による審査
 - 7大学：最も多い
 - 以下の人々が加わる大学もあり
 - 大学院生や学士課程学生
 - 学内の他部署
 - 図書館友の会，財団

連携

- 学内における、**学生の研究発表イベント**の一環として実施
 - 8大学（9件の賞）
- 学士課程学生の**研究プログラム**（選択制）の一環として実施
 - 1大学

連携

- 12大学の協力部署や援助機関等を確認



- 学内の協力部署
 - 学士課程学生の研究に関する部署・プログラム（4大学）
 - 学士課程教育部署，学生支援部署，奨学金部署（1大学）
- 援助機関等
 - 図書館友の会（4大学）
 - 財団（2大学）
 - 卒業生組織，出版社，個人（1大学）

評価基準

- 29大学（32件の賞）の評価基準を確認
- 3つの類型

- (a) 図書館の資料・資源の活用度
- (b) 研究の質
- (c) 学生の学びの深度

(a) 図書館の資料・資源の活用度

- 29件の賞で明記
 - そもそも，表彰の対象を図書館の資料・資源を利用している研究としている
 - さらに，活用度を評価

(b) 研究の質

- 31件の賞で明記
 - 研究レベル
 - 研究プロセス
 - 引用の適切さ
 - オリジナリティ

(c) 学生の学びの深度

- 21件の賞で明記
 - 研究・探求の態度や能力の習得
 - 情報リテラシーの習得

評価基準

- (a) 図書館の資料・資源の活用度
- (b) 研究の質
- (c) 学生の学びの深度

- 全ての基準を明記
 - 19件の賞：**最も多い**
 - 全て「類型①-全般」と「類型③-特定学生」

評価基準

- (a) 図書館の資料・資源の活用度
- (b) 研究の質

- 上記の基準を明記
 - 9件の賞



まとめ

学士課程学生対象の表彰制度

- ARLに加盟するアメリカの大学図書館の少なくとも**3割**で実施



- それなりに広まっている

特徴：表彰の対象

- 学士課程学生の**研究成果物**あるいは**研究計画**
 - **図書館の資料・資源**を利用しているもの
 - 36件の賞で明記 (n=37)
 - **授業**において取り組んだ研究が対象となることが多い
 - 授業内あるいは授業外で取り組んだ研究 [14件], 授業内で取り組んだ研究[11件]
(n=28 : 不明を除く)

特徴：表彰制度の運用

- それぞれの大学・賞において、**違いが見られる面**もある
 - 表彰の対象とする学生（学年）
 - // 分野
 - 賞金額
 - 応募時に必要なもの
 - 審査体制
 - 連携の有無

特徴：表彰制度の運用

- 応募時
 - 研究プロセスや図書館の資料・資源の利用に関するエッセイ 23件の賞 (n=37)
- 研究と図書館利用の経験を熟考させる
- 内容 例) カリフォルニア大学バークレー校
 - 研究プロセス, 利用した資料・資源, 研究における資料・資源の活用, 研究を通しての学び

特徴：表彰制度の運用

- 教員や他部署との協力・連携が見られる大学・賞が存在
 - 応募時に「教員の推薦」が必要な賞
 - 審査に教員や他部署が関わる賞
 - 学内における学生の研究発表イベントや研究プログラムの一環として開催される賞

特徴：評価基準

(a) 図書館の資料・資源の活用度 (29件)

(b) 研究の質 (31件)

(c) 学生の学びの深度 (21件)

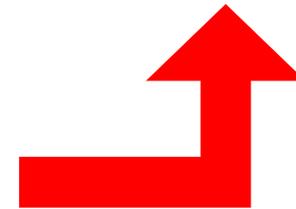
(n=32)

➤ (a) (b) は特に多くの賞で明記

表彰制度の役割

大学教育において注目されている
「学士課程学生による研究」と
「図書館の資料・資源の利用」を
結び付け、それらを促進する役割

- 授業との関連
- 教員や他部署との協力・連携



大学図書館による 学士課程学生対象の表彰制度

大学図書館が大学教育への
支援・関与を行うための
有効な手段の1つ



ご清聴ありがとうございました。

1. 中井俊樹. 学士課程の学生に研究体験は必要か: 国際的動向と論点整理. 名古屋高等教育研究. 2011, no. 11, p. 171-190.
2. Kinkead, Joyce, ed. Valuing and Supporting Undergraduate Research. Jossey-Bass, 2003, 98p.
3. Healey, Mick; Jenkins, Alan. Developing Undergraduate Research and Inquiry. Higher Education Academy, 2009, 152p.
4. 中島(渡利) 夏子. 米国の研究大学における1990年代以降の学士課程カリキュラムの特徴: 研究に基づく学習を重視するスタンフォード大学の事例から. 東北大学大学院教育学研究科研究年報. 2008, vol. 57, no. 1, p. 173-189.